since 1982

長崎寄席だより vol.233

独演会

［当日プログラム］
一、落語 桂 空治
二、落語 春風亭 一之輔
仲入り
三、マジック 花島 久美
四、落語 春風亭 一之輔

2023 3月18日(土)

開場 17:00 開演 18:00

会場／ひびきホールまいばすけっと3F

ホール代
当日一般：3,000円
前売り・予約：2,700円
会員同伴（1名様のみ）：2,500円
常連会員：1,500円
中・高校生：1,000円
小学生：500円

ご予約方法
●インターネット
https://nagasakiyose.jimdofree.com/
上記から「お問い合せ」をクリック。
もしくは右記のQRからアクセスしてください。
●電話
☎080-3386-2952 長崎寄席世話人会（藤井）

<<< 長崎寄席Webサイト
長崎寄席twitter >>>
Webもチェック!

福祉に関することでお困りの時は何でもお気軽に
みんなで支え合う暮らし・みんなの街
地域福祉研究会
ゆきわりそう
〒171-0052 東京都豊島区南長崎5-21-7
☎03-3565-3859

せき・こえ・のどに「浅田飴」
4種類の生薬（キキョウ、トコン、マオウ、ニンジン）がせき、たん、のどの諸症状に効果を発揮します
【効能・効果】せき、たん、のどの炎症による声がれ・のどのあれ・のどの不快感・のどのはれ
cool / nikki / passion
第2類医薬品
これらの医薬品は、薬剤師、登録販売者に相談のうえ、「使用上の注意」をよく読んでお使いください。
https://www.asadaame.co.jp/ 〒171-0052 東京都豊島区南長崎 3-1-5

優良菓子卸
柴田商店
小売も始めました
○ 菓子袋詰め、進物
○ 紀州梅干
豊島区南長崎5-3-13
☎03-3951-5933
FAX 03-3951-5483

次回告知
第235回 長崎寄席
柳家かゑる・柳家まめ平
ロケット団（漫才）

2023 5月27日(土)
開場／17:00開演／18:00
会場／ひびきホール
まいばすけっと3F
・西武池袋線東長崎駅から徒歩4分
・都営大江戸線落合南長崎駅から徒歩8分

当日一般：2,000円
前売り・予約：1,800円
常連会員：1,500円
中・高校生：500円
小学生：無料

ご予約方法
●インターネット
https://nagasakiyose.jimdofree.com/
上記から「お問い合せ」をクリック。
もしくは右記のQRからアクセスしてください。
●電話
☎080-3386-2952
長崎寄席世話人会（藤井）

落語 Profile

春風亭一之輔

しゅんぷうてい・いちのすけ

1978年、千葉県野田市出身。2001年3月に日本大学芸術学部放送学科を卒業後、春風亭一朝に入門する。同年7月に前座となる。前座名は「朝左久」。2004年、二ツ目に昇進。改名して「一之輔」となる。2012年3月、真打に昇進。21人をごぼう抜きで真打ちになったことが話題に。2005年、東京寄席演芸の新人賞である「岡本マキ賞」受賞を皮切りに、2008年「国立演芸場花形演芸大賞」銀賞受賞、同年「東西若手落語家コンペティション」優勝、2009年「北とぴあ若手落語家競演会」大賞受賞。2010年には「NHK新人演芸」にて「初天神」で大賞受賞、同年「文化庁芸術祭」にて「茶の湯」で新人賞受賞、2012年「国立演芸場花形演芸大賞」大賞、2013年「国立演芸場花形演芸大賞」大賞、2015年「浅草芸能大賞」新人賞と大きな賞を総なめにしている。

マジック Profile

花島 久美

はなしま・くみ

東京都出身。父は楽団スイングシラブルのコンダクターでギタリスト、作曲家でもあり多方面で活躍していた音楽プロデューサーである高橋明美、祖父母は夫婦漫才の高波志光児・光菊。そして曽祖父は落語家という芸能一家の4代目。16歳で、松旭斎すみえに入門。

2016年4月からは高波志久美寿として江戸、室町時代よりの古典手品と、『江戸寿玉すだれ』の家元として伝統芸能を伝承する。

国立演芸場、浅草木馬亭、浅草東洋館、新宿末広亭、ライブハウス・BePointでフジテレビアナウンサー牧原俊幸氏とジョイントマジッククライブ、NHK BSの名人寄席特選会等々、舞台やテレビで活躍するかたわら、銀座、蒲田、綾瀬、日暮里、新百合丘に手品教室を開講。

みんなのつぶやき… 長崎寄席雑記

桂文治師匠と行く晩秋の京都

長崎寄席 世話人 武井 昭三

快晴の師走の1日から3日間、桂文治後援会の本幡玲子会長の主催による晩秋の京都旅行に参加しました。

師匠は仕事の関係で車で来られ、南禅寺で合流。名物の湯豆腐料理でお腹を満たし、有名な石川五右衛門伝説の三門を潜り、国宝の方丈を拝観し、石庭の素晴らしさに時を忘れました。そこから紅葉の散歩道を歩くこと数分で永観堂禅林寺へ。真っ赤な紅葉に目を奪われ、堂内の長い廊下を行くと、庭には一面の散り紅葉。あまりの美しさに言葉が出ませんでした。さらに階段を上がると、「みかえり阿弥陀」がお出迎え。昔、東京で拝観したときはものすごい人並みで一瞬でしたが、今回は心いくまでお参りできました。

夜は桂文我師匠の上方落語会へ。文治師匠は「源平盛衰記」。時事ネタを交えたけられた噺は「締め込み」。旦那さんとおかみさんの勘違いすれ違いの滑稽さ。そこから始まる惚気話と夫婦喧嘩の愉快さ。仲裁する羽目になった泥棒の抜け具合。「うんなのか出刃なのか」のやり取りに、会場中が大笑いです。

■前半最後を飾るのは、今回が長崎寄席初出演となる柳家小八さん。楽屋のネタ帳に、柳家喜多八師匠の二ツ目時代の記帳を発見。燕弥さんに負けじと、師匠との昔話を披露しつつ、始めた噺は「二番煎じ」。火事の出やすい冬の夜に、火の用心の見回りをする男たちの辛そうな愚痴は、今宵寒波に参っている我々の心に染み入ります。寒さをやり過ごすために取り出された、お茶と言う名の酒一升に猪肉葱味噌そして鍋。見回り衆の暖の取り方は、帰りに熱い燗を決めたくなるような、外の寒さを忘れさせる一席です。

■仲入休憩を挟んで、山本光洋さんによるパントマイム。風に飛ばされる新聞紙から始まり、見えない糸を体に括り付け自身を操り人形と化し一挙手一投足で笑いを誘い、テーブルクロス引きも見せるチャーリー山本。緊張感と笑いの絶えぬテーブルクロス引きのあとは、一人二役で見せる華麗な体捌きのダンス。合間合間に見せる滑稽な動きで笑いを誘いつつも、しっとりした魅力の所作がお見事。

■後半一席目は、柳家小八さん。マイクチェックの時は「道灌」の話と決めている小八さん。その道灌を聞いた小三治大師匠から厳しいダメ出しを受けていたとのこと。そんな手厳しさの思い出話から始まったのは「小言念仏」。適当な念仏をあげて、その合間に周りに口出し小言を言う男。その小言一つ一つに、周囲の生活が見えてくる不思議。小言のおかしさと、その小言から見えてくる景色のおかしさ、そのふたつが重なり尚おかしく見せる巧みな話術。蒸し焼きのどじょうが恋しくなる一席。

■本日のトリを務める柳家燕弥さんの一席は「竹の水仙」。日に五升の酒を飲む謎の宿泊客。宿泊代なぞ持っていないと言い切った男が七日間の宿泊費を賄うために作ったのは、裏の竹藪で取ってきた竹で作った見事な水仙。この竹の水仙を巡って始まる、細川越中守と側用人綿貫権十郎と宿屋の主人の幾多の悶着。名人左甚五郎の粋な計らいは、客席に爽やかな心持ちを残していくのでした。

住宅建築設計施工／一級建築士事務所

株式会社 岩井工務店

町の工務店です。
住宅の新築・リフォームを主に行っています。

豊島区長崎4丁目17-5
ライオンズマンション東長崎108号
☎03-3957-1456FAX 03-3957-1459

地域密着の不動産業者

足立土地住宅社

東長崎駅・椎名町駅周辺の
マンション・アパート・駐車場等の
管理、仲介を行っています。

豊島区南長崎5-20-16
☎03-3951-3665FAX 03-3954-2325

前回の長崎寄席

柳家燕弥・柳家小八 二人会

［第233回 長崎寄席］
2023年1月28日（土）

●時そば　桂　空治
●締め込み　柳家　燕弥
●二番煎じ　柳家　小八
●パントマイム　山本　光洋
●小言念仏　柳家　小八
●竹の水仙　柳家　燕弥

世話人だより

■寒波に見舞われ震える寒さの中でしたが、今回も多くの方にご来場いただきました。ありがとうございます。

■世話人会からのご挨拶と、今回の出演者紹介と次回の告知。次回は開催時期がいつもと異なります。ご注意ください。

■開口一番は桂空治さん。文治師匠から「空治を養子にしたい」宣言があり、一部の人達が信じてしまったこと。仕事の都合で連絡が取れない期間が続くと「どうして電話の一つもよこさないんだ!」と叱られたいう、師匠愛されエピソードを披露。みんなの心と会場が温まったところで切り出されたのは「時そば」。二八そばの名前の由来諸説を紹介しつつ、目に映るもの全てを褒め勢いよくそばをすする姿は、外の寒さを忘れさせ、熱いそばをすすりたくなる心持ちにさせてくれます。その後のまずいそばをすする姿も小気味よく、見惚れる上手さ。

■続いて高座に上がったのは柳家燕弥さん。空治さんの時そばを褒めつつ、本日の出演陣の二枚目っぷりを大いに自慢。燕弥さんには前座時代に何度か出演いただき、今回は16年ぶり。長崎寄席20周年の時にも出演いただき、その時の思い出話も。二ツ目に上がられてからも出演をお願いしていたのですが、台風にコロナにと立て続けに中止となり、今回ようやく出演が叶いました。そうして高座にか熱演の高座で開場は大爆笑。地元のお客さまにも大受けでした。芝楽師匠は「南きん玉すだれ」、空治さんは「新聞記事」で笑いを誘ってくれました。

二日目は大原寂光院へ。建礼門院が、我が子である安徳天皇の菩提を弔い、終生をこの地で過ごされたという歴史を深く感じました。寂光院前にある翠月さんは京漬物と佃煮の店で、しば漬けがとくに有名です。文治師匠が贔屓の店でもあるため、後援会のみなさんは爆買いをして、売り切れになるほどの繁盛ぶり。店のお母さんは喜びいっぱいでした。夜はホテル近くの料理店で京料理づくしの大宴会。大変に盛り上がりました。

三日目は嵐山天龍寺へ。方丈の達磨大師の掛け軸を見て、曹源池庭園でしばしの休憩。歩いて4分ほどの場所にある観光名所・渡月橋にも行きましたが、観光客の多さにコロナの感染が心配になるほどでした。京都市内に戻り、三条大橋にあるほうきやたわしの専門店・内藤商店へ。ここも文治師匠なじみの店で、後援会のみなさんはまたしても買い物三昧でした。師匠たちは車で帰るとのことでしたので、ここでお別れしました。歩くことの多い今回の旅行では、歩くのが不自由な方々のために師匠が車を提供してくれ、3日間ずっと空治さんが運転をして、送迎に活躍してくれました。みなさん、その親切に大変感謝していました。

三条大橋近くには、私の故郷である信州松代藩の幕末の偉人「佐久間象山先生遭難之碑」があります。子どもの頃に母親から、実家に象山が来て「京都に行くが、帰れなくなるかも…」と知らされたという逸話を聞かされていましたが、この場所の碑を見て、あらためて史実を実感した次第です。

京都駅に向かう途中、思いがけなく東寺も参拝でき、国宝に指定されている五重塔の内部も参拝できたこと、会長さんの心くばりに感謝感激しました。夕焼けの五重塔を後にして、今回は特に心に残るすばらしく楽しい旅でした。

近隣の地域寄席を訪ねて・2

長崎寄席 世話人代表　藤井 岳美

『新版 三人集』として落語会を開いてきた同期入門の春風亭一蔵、柳亭小燕枝、入船亭扇橋の三人が、2022年秋、揃って真打ちに昇進しました。わたしも落語協会主催の真打披露パーティーに参加し、会場では、大塚落語研究会という地域寄席を主催しているYさん、Tさんと知り合いになりました。

大塚落語研究会は、二人の地元である大塚で立ち上げた地域寄席で、大塚駅から徒歩数分の地元商店会のホールで、年に4回程度開催されています。地元同級生のお二人ですが、Yさんは文学青年、Tさんはサーファー、まるで白子さん、黒子さんという風情です。

私が参加させていただいたのは『第22回 講談師・田辺いちか独演会』。地域寄席というよりは、二人の地域での知人、出演者のファンを集めて開催している雰囲気で、お客さまは20数名ほどでした。

Yさんの挨拶から始まり、いちかさんは大熱演でした。2014年に田辺一邑に入門し、現在二ツ目ですが、2020年「渋谷らくご大賞 おもしろい二つ目賞」を受賞されております。聞けば、大学卒業後に中国で日本語教師となり、帰国後は

電子部品製造
ムサシ電子株式会社
確かな技術で
高い信頼をお届けします
豊島区千早3-12-3
☎03-3959-3351FAX 03-3959-4990

鮎沢歯科医院
☎03-3565-0118
豊島区南長崎5-14-2
バス停前

舞台俳優、講談の道に入られたのはその後とのこと。講談界では若手ですが、色々な経験をバックグラウンドとした華やかで迫力のある高座に、いっぺんでファンになってしまいました。終演後に参加させていただいた打ち上げでもお話させていただき、思わず「機会があれば近い将来に長崎寄席へご来演いただきたい」と誘ってしまいました。長崎寄席も、以前は講談も取り入れていたとのことですが、最近はだいぶご無沙汰をしています。昨今の講談ブームもあるので、今後は積極的にお願いしていきたいと考えております。

打ち上げは、田辺いちかさんを囲んで楽しく地元の居酒屋で開催されました。長崎寄席も、コロナ以前は常に打ち上げをしていたので非常にうらやましくなり、近いうちの打ち上げ復活を企んでいます。その際は是非皆さまご参加ください。

打ち上げの場でも主催者のYさんと話をしました。最初にも申した通り、文学青年風な外見なので、大人しい人かと思っていたのですが、少し違っていました。かなりマニアックな人でした。転勤の多い仕事に就いているYさんは、なんと赴任先の各地で落語会を立ち上げて来ているのです。かなりの行動力がある方で、そのエネルギッシュな姿見習うところが多々あります。

立ち上げてきた落語会の一つが今でも甲府で会を開催しています。大塚での会の後、Yさんから誘っていただき、見に行かせていただきました。他の地域寄席に呼んでいただくと、かなり参考になることも多く、今後の長崎寄席運営に反映させたいと考えるばかりです。

この他にも知り合いになりました地域寄席を伺いましたので別の機会で報告をさせていただきます。

さて、最後に今後の長崎寄席意についての案内をさせていただきます。前回の寄席だよりでもお知らせました通り、第235回の長崎寄席は、5月の最終土曜日、5月27日(土)です。ご出演は、林家まめ平さん、柳家かゑるさん、色物にロケット団さんとなります。

まめ平さん、かゑるさんともに本年9月に真打昇進となる前途有望な二つ目さんです。真打昇進直前会を期待してください。2023年後半の長崎寄席も鋭意企画中です。大物入る予定です。ご期待ください。

藤井光学は、各種高性能光学系の設計開発および試作から量産まで、
多用なご要望にお応えできる光学設計・製造のプロフェッショナル集団です。

FUJII OPTICAL
藤井光学株式会社
FUJII OPTICAL CO.,LTD.
Designer、Manufacturer of Optical Systems & Lenses

〒171-0052 豊島区南長崎5-9-11☎03-5996-7661

【芸人交遊録／第5回目】

深井 洋正

長崎寄席 世話人 石田 隆則

その男、渡米すること142回、1年のうち100日くらいは東南アジアを中心とする外国に行っていて、10年もののパスポートが1冊では足らず、なんと3冊にもなり、スターアライアンスのマイレージがどんどん貯まるため永久ゴールド会員になり、外国へ行くときは食事や休憩ができるラウンジが使用できるのです。おそらく、東南アジアでは一番有名なマジシャンではないでしょうか。

わたしも何回か彼と一緒に旅行しましたが、どこの国でも頻繁に「深井さん、写真を撮らせてください」という人に会いました。

またそれだけではなく、北京のマジック大会に出場したときは、日本から応援に来た人たちのために万里の長城見学のバスを出したり、香港ではナイトマーケットの買い物ツアーのバスを出したりと実にマメな一面もある男です。

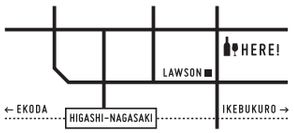
国内では、1988年のNHK紅白歌合戦で、小泉今日子さんの歌う「快盗ルビイ」の前奏に合わせたマジックで共演したり、海外では、イギリスで15年間も続いたマジックの人気テレビ番組「ポール・ダニエルズ・マジック・ショー」に出演したり、ラスベガスのショーに出たり。どちらかというと海外での活躍の方が多い男、それが深井洋正です。

彼と一緒に海外に行くと、関係者と間違えられて食事の会に出席できたり、弁当をもらったり、外国のマジシャンにおごってもらったりと、ずいぶんタダ飯を食わしてもらいました。それだけ彼は海外で有名なのです。

国内のコンベンションではコンテストの審査員をやったり、自身でマジックショップの出店もしています。ただ、彼の店は海外で探してきた健康サンダルやスマホで使う自撮り棒、世界で二番目に小さいバイオリン、小さなドローンなど、マジックとはあまり関係のないものばかり売っているのです。「マジックが不思議なのは当たり前だが、おもしろくなければいけない」という信念のもと、笑えるマジックを目指しているマジシャンなのです。

各病・医院処方箋調剤

漢方相談／東京中医学研究会々員
薬剤師・広田 悦造
(有)ホーム薬局
東京都豊島区南長崎5-10-10
☎03-3951-2869FAX 03-3952-2823

寄席のあと、ちょっと一杯どうですか？
BAR
PUNYPONY
バープニポニ


●月曜日-土曜日
●20:00-26:00
※月曜日は隔週で休みです。
171-0051
豊島区長崎4-13-7